

(統計史料でみる明治・大正期【その1】附録)

# 明治・大正期の我が国の推計人口に関する資料

奥積 雅彦 (総務省統計研究研修所教官)

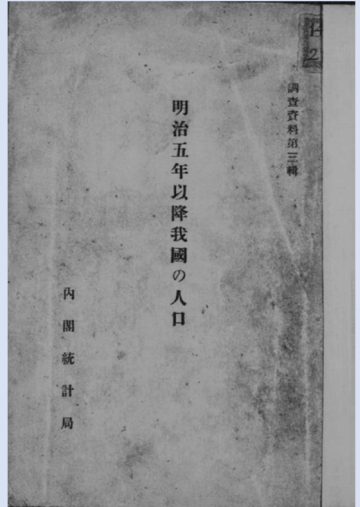
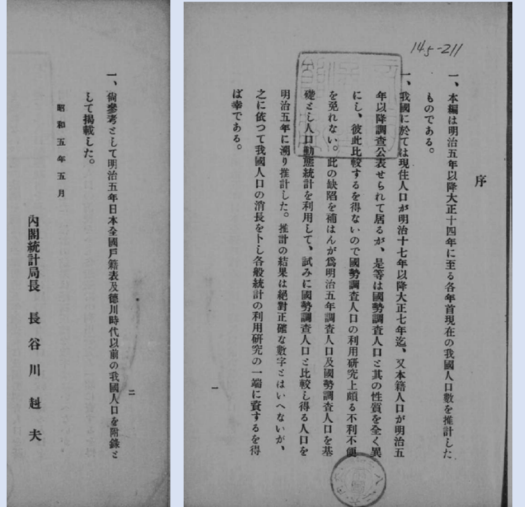
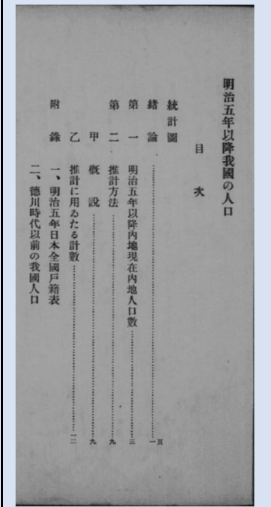
インターネットで公開されている我が国の長期時系列人口に関する資料の探索を試みたところ内閣統計局「調査資料. 第3輯」(明治五年以降我が国の人口)に出会いましたので、ここに紹介します。

## ○資料の概要

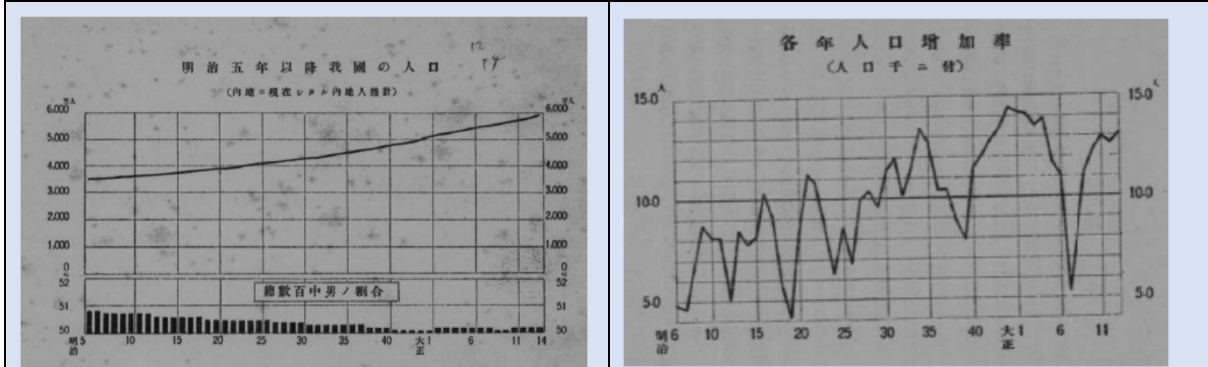
序文の冒頭で「明治五年 1872 年以降大正十四年 1925 年に至る隔年首現在の我が国人口数を推計したもの」とあり、次のパラグラフで資料作成の意図や問題意識が説明されています。それによれば「我が国に於ては現在人口が明治十七年 1884 年以降大正七年 1918 年迄、又本籍人口が明治五年 1872 年以降調査公表せられて居るが、是等は国勢調査人口と其の性質を全く異にし、彼此比較するを得ないので国勢調査人口の利用研究上頗る(すこぶる)不利不便を免れない。此の缺陷(欠陥)を補はんが為明治五年調査人口及国勢調査人口と比較し得る人口を基礎とし人口動態統計を利用して、試みに国勢調査人口と比較し得る人口を明治五年に遡り推計した。」とされています。

資料は、推計結果、推計方法の概説、推計に用いた計数で構成されています。また、附録に「明治五年日本全国戸籍表」と「徳川時代以前の我が国人口」が参考資料として所収されています。

## ●内閣統計局「調査資料. 第3輯」(明治五年以降我が国の人口)

表紙	序文	目次
		

## 統計図



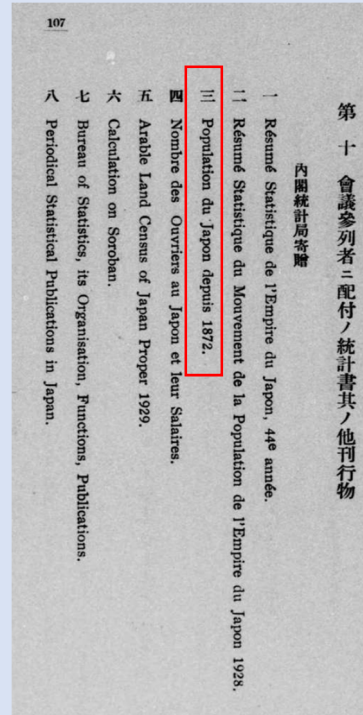
【画像】国立国会図書館デジタルコレクション

【一口メモ】本文中、人口増減率のグラフで増加率が著しく低い年次は、コレラの大流行(明治12年、19年、24年)、日露戦役・丙午の関係(明治39年)、流行性感冒(スペイン風邪)(大正7年)の影響であると説明されています。

○資料の発行時期

資料の序文は昭和5年1930年5月、奥付は昭和5年8月発行となっています。資料の作成のタイミングは、同年9月開催の国際統計協会会第19回での配布を念頭に置いた可能性も考えられることから、「国際統計協会会議報告 第19回」を参照したところ、会議参加者に配付の統計書その他刊行物がフランス語でリストアップされており、内閣統計局寄贈の一つに「Population du Japon depuis 1872」がありました。これを直訳すると「1872年明治5年以降の日本の人口」となります。前掲の「明治五年以降我国の人口」を原資料としてフランス語に翻訳した資料が同会議で提供されたものと考えられます。

●国際統計協会会議報告 第19回(抜粋)



【画像】国立国会図書館デジタルコレクション

【参考】我が国の長期時系列人口に関する資料の所在源情報（インターネット公開分）

dl.ndl 明治五年以降我国の人口

1872年 明治5年～大正14年	dl.ndl 内閣統計局「調査資料 第3輯」（明治五年以降我国の人口） ※各年1月1日現在（明治5年は太陰暦正月末日現在） 【参考】附録に「徳川時代以前の我國人口」所収
---------------------	--

(注) dl.ndl : 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1452778>

e-stat 人口推計

1920年 大正9年～平成12年	e-stat 人口推計>長期時系列データ>我が国の推計人口（大正9年～平成12年） ※各年10月1日現在
2000年 平成12年～平成27年	e-stat 人口推計>長期時系列データ>長期時系列データ（平成12年～27年） ※各年10月1日現在

(注) e-stat : 政府統計の総合窓口 <https://www.e-stat.go.jp/>

統計局HP 第七十回日本統計年鑑 令和3年

1872年 明治5年～大正9年	統計局HP 日本統計年鑑>第七十回日本統計年鑑 令和3年>I部 地理・人口>第2章 人口・世帯>2-1 人口の推移>A 明治5年～大正9年 ※各年1月1日現在（明治5年は太陰暦正月末日現在）
1920年 大正9年～令和元年	統計局HP 日本統計年鑑>第七十回日本統計年鑑 令和3年>I部 地理・人口>第2章 人口・世帯>2-1 人口の推移>B 大正9年～令和元年 ※各年10月1日現在

(注) 統計局HP : <https://www.stat.go.jp/data/nenkan/70nenkan/index.html>